

令和 8 年 7 月 1 日
産業・人権環境常任委員会資料
産業観光部観光振興課

令和 7 年度お茶と宇治のまち歴史公園の指定管理者事業報告について

宇治市指定管理者の指定の手續等に関する条例施行規則第 11 条に基づき、
別紙のとおり報告いたします。

令和 7 年度 事業報告書

令和 8 年 4 月 1 5 日

施設名	お茶と宇治のまち歴史公園
団体名	株式会社宇治まちづくり創生ネットワーク
代表者名	代表取締役 林 隆志
指定管理期間	令和 3 年 8 月 2 1 日から令和 1 8 年 1 1 月 3 0 日 (1 5 年間)

(1) 業務実施状況報告 (令和 7 年度)

【管理運営に関する基本方針と結果について】
本年度は、宇治の歴史資源である太閤堤跡や宇治茶文化の魅力発信を基本方針とし、体験事業・ミュージアム・物販を連動させた施設運営を行った。 体験事業においては、抹茶づくり体験を中心に多くの利用があり、インバウンドを含む幅広い来訪者への対応を行った。また、体験事業とミュージアム見学、物販利用を組み合わせることで、施設全体の利用促進に取り組んだ。 大河ドラマ展の終了により、来園者数については前年を下回る結果となったものの、ミュージアム入館者数および体験参加者数は増加した。 また、環境衛生や周辺住民に配慮した維持管理を行い、作業時間帯や作業方法を工夫することで、快適な利用環境の確保に努めた。
【施設の平等利用の考え方と実施した対策について】
本施設は公共施設として、年齢・性別・国籍・障がいの有無等にかかわらず、すべての利用者が公平に利用できる環境の確保を基本方針として運営を行った。 利用機会の平等確保に向けては、体験事業や施設利用において、事前予約と当日受付を併用することで、計画的な利用と突発的な来訪の双方に対応した。また、外国人利用者の増加に伴い、英語による案内や体験対応を実施するなど、多様な来訪者が支障なく利用できる体制を整備した。また、令和 7 年度よりミライロ I D (デジタル障がい者手帳) への対応を開始し、障がい者手帳アプリ利用者への対応環境を整備した。 館内案内や接客においては、すべての利用者に対して同一水準のサービス提供を徹底し、「おもてなし」研修や接客研修を定期的実施することで、安心して利用できる環境づくりに努めた。
【利用拡大の取組結果について】
体験事業を中心とした集客強化および情報発信の充実により、施設利用の拡大に取り組んだ。 体験事業においては、抹茶づくり体験をはじめとした各種プログラムを年間を通じて実施した。特にインバウンド利用者を中心に多くの参加があり、O T A (オンライン旅行代理店) を活

用した事前予約により、安定した利用につながった。

また、体験事業とミュージアム見学を組み合わせた事業の促進や、体験後のミュージアムショップ利用促進に取り組み、ミュージアム入館者数およびショップ利用者数の増加につながった。

広報面では、SNS（Instagram、X等）による情報発信を継続するとともに、体験参加者による投稿や口コミの促進を行った。また、旅行代理店への営業活動や観光関連団体との連携を行い、利用促進に取り組んだ。

さらに、大阪・関西万博関連事業への出展等を通じて、宇治および本施設のPRを実施した。

【利用料金収入の結果について】

(単位：千円)					
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ミュージアム	2,810	4,912	8,789	23,068	29,584
駐車場	2,622	5,663	5,855	11,879	7,859
会議室	1,118	2,208	4,827	18,373	2,186
体験室	83	466	514	342	140
広場	100	1,326	374	537	432

【自主事業に関する取組結果について】

主な自主事業として、「茶づなdeマルシェ」を継続的に開催し、地域事業者と連携したイベント運営を実施した。年間を通じて定期開催を行い、地域住民や観光客の来場につなげた。夏季には夜間開催による夏祭り企画として、縁日や盆踊りを実施した。

また、外部団体と連携した「うじ Farmers Market」や各種マルシェイベントを開催し、地域事業者の出店機会創出および施設のにぎわいづくりに取り組んだ。

講座事業においては、学校団体を対象に宇治茶の歴史や文化、お茶づくりに関する講演を実施した。

茶体験プログラムでは、利用者ニーズに応じた内容の見直しを行い、茶摘み体験の実施期間延長や、「茶臼から挽きたての抹茶とこだわりアイスで愉しむ体験」、「京都の和菓子作り体験」、「書道体験」等を試験的に導入し実施した。

さらに、EXPO2025 大阪・関西万博の関西パビリオン京都ブースへの出展を行い、茶臼体験や宇治茶体験を通じて、国内外に向けた宇治茶および茶づなのPRを実施し、より多くの方に認知いただいた。

【情報発信の取組結果について】

1. デジタルメディアを活用した情報発信

(1) ホームページ

施設情報、体験プログラム、イベント情報等を一元的に発信し、年間を通じて安定したアクセス数を維持した。

(2) SNS (Instagram・X) 運用

InstagramおよびXを中心に運用し、体験参加者への投稿促進やストーリーズを活用したリアルタイムでの情報発信を実施した。令和8年3月末時点でInstagramフォ

ロワー数4, 883人、Xフォロワー数1, 931人となり、継続的な情報発信による認知拡大を図った。

(3) O T Aとの連携

O T A (オンライン旅行代理店)との連携を継続して実施し、国内外からの予約導線を確保した。特にインバウンド利用者の獲得に寄与しており、抹茶体験については年間を通じて予約が満席となる日が多く見られた。

2. 雑誌・WEB・メディア媒体への掲載

(1) 雑誌・紙媒体

観光情報誌や地域情報誌への掲載を継続的に実施した。また、教育旅行誘致に向けた広告掲載を行い、小中学校、高校および旅行代理店へのP Rを実施した。

(2) WEB掲載

観光関連WEBサイトや旅行関連メディアへの掲載を通じて情報発信を行った。多言語対応の旅行関連サイト等にも掲載され、国内外への認知向上につながった。

(3) テレビ・ラジオ・動画媒体

テレビ番組、ラジオ、動画媒体等への出演・掲載を通じて施設のP Rを実施した。抹茶体験や茶摘み体験等について取材を受け、施設の魅力発信に努めた。

3. ポスター・チラシ等による告知活動

JR 奈良線主要駅へのポスター掲示を継続して実施した。また、宇治市広報板や教育機関等への配布を通じて、地域密着型の広報活動を行った。

4. 営業活動・団体連携による広報

旅行代理店や観光関連団体との連携を継続し、教育旅行および団体利用の誘致に取り組んだ。また、E X P O 2025 大阪・関西万博への出展を通じて、宇治茶および本施設の魅力を国内外へ発信した。

5. 自主イベントに伴う広報・プロモーション

お茶摘み体験をはじめとした季節イベントについて、プレスリリース配信やメディア掲載等を活用した情報発信を実施した。また、地域住民向けイベントについては、宇治市政だよりや公式L I N E等を活用して周知を行った。

これらの取組により、体験参加者数の増加や教育旅行・団体利用の促進につながった。

【管理運営体制等について】

< 運営業務 >

以下の職員を日々の繁閑に応じて柔軟に増減させ対応した。
正社員3名 臨時職員34名 計37名

【地域との連携、市民参画の結果について】

地域との連携強化および市民参画の促進を目的として、関係団体や地元事業者との協働による事業運営に取り組んだ。

体験事業においては、茶農家や関係団体と連携し、宇治茶の魅力を伝えるプログラムを実施した。また、講座事業においても、茶業関係者や教育機関と連携し、宇治茶文化や歴史に関する講

座を実施した。 自主事業として実施した「茶づなd e マルシェ」では、地域事業者と連携したイベント運営を継続的に実施した。 また、「なびカード」事業を通じて、商店街等と連携した情報発信を行うとともに、来訪者への周辺店舗案内等、周遊促進に取り組んだ。
【トラブル対応、防犯、防災対策について】
来館者が安心して利用できる施設環境の確保を目的として、トラブルの未然防止および迅速な対応体制の構築に努めた。 トラブル対応については、年間を通じて重大な事故等は発生せず、日常的な接客対応の中で利用者の意見や要望を把握し、その場での対応および必要に応じた運営改善を行うことで、安定した施設運営に努めた。 防犯対策としては、館内外の不定期巡回を実施するとともに、防犯カメラによる監視および夜間の機械警備を継続し、不審行為や施設破損の抑止に取り組んだ。また、屋外空間における利用マナーについても、関係機関と連携しながら対応を行った。 防災面においては、消防署の協力のもと消防訓練を実施し、初動対応や避難誘導の確認を行うとともに、職員の防災意識の向上に努めた。加えて、日常業務においても安全確認や危険箇所の点検を行い、事故の未然防止に取り組んだ。
【利用者要望の把握状況及び実施策について】
利用者ニーズの的確な把握とサービス向上を目的として、館内アンケート、受付時の聞き取り、OTA（オンライン旅行代理店）やWEBサイト上の口コミ等を活用し、利用者意見の収集に取り組んだ。 特に、インバウンド利用者の増加に伴い、オンライン上の口コミや評価についても確認を行い、運営改善に活用した。 収集した要望に対しては、外国人利用者からの案内表示に関する意見を踏まえ、多言語での案内強化やスタッフによる補足説明を実施した。また、体験運営や館内利用環境に関する意見についても、必要に応じて運営方法の見直しや設備調整を行った。 さらに、接客対応や館内動線に関する意見については、スタッフ間で情報共有を行い、日々のミーティング等を通じて対応改善に取り組んだ。 館内アンケート結果については、利用者満足度や要望内容等の集計を行い、施設運営改善に活用している。
【サービス向上取組内容について】
来館者満足度の向上を目的として、接客対応の強化および運営体制の改善に取り組んだ。 接客面においては、「おもてなし」研修や接客研修、観光案内研修を継続的に実施し、スタッフ一人ひとりの対応力向上を図った。特にインバウンド利用者の増加に対応するため、英語での案内や体験サポートの強化を行い、多様な利用者に対して円滑なサービス提供を実現した。 また、体験事業においては、参加者の満足度向上を図るため、運営方法や説明内容の見直しを継続的に行うとともに、団体利用の増加に対応した運営体制の整備を進めた。これにより、円滑な受入と高い評価の維持につながった。 施設運営面では、スタッフ間の情報共有や日々のミーティングを通じて、利用者要望や運営課題の共有を行い、迅速な改善に取り組んだ。また、動線の見直しや案内方法の工夫により、混雑

時においてもスムーズな利用環境の確保に努めた。 さらに、体験参加者への声かけによるSNS投稿促進や、利用者とのコミュニケーション強化により、満足度の向上と再来訪意欲の醸成を図った。
【経費縮減・収支改善に関する具体的な方策と結果について】
効率的な施設運営と収益性の向上を目的として、経費縮減および収支改善に取り組んだ。 日常業務の見直しと職員のマルチジョブ化を推進し、業務の効率化と人件費の最適化を図った。あわせて、日々のミーティングや教育を通じて職員のコスト意識の共有を行うとともに、館内の電力使用管理や資源の有効活用等により、継続的な経費削減に取り組んだ。 収支改善においては、OTA（オンライン旅行代理店）を活用した事前予約および事前決済を継続して実施し、運営効率化および安定した収入確保に努めた。 さらに、体験事業とミュージアム利用を組み合わせた案内や、ミュージアムショップにおける商品展開の見直し等を行い、利用促進に取り組んだ。
【個人情報保護措置と実施状況について】
個人情報の取扱いについては、関係法令および社内の個人情報保護規定に基づき、取得・利用・保管・廃棄の各段階において適正な管理を実施した。 また、職員に対しては入社時および定期的な研修を通じて個人情報保護の重要性を周知するとともに、誓約書の提出を義務付けることで、意識向上および遵守徹底を図った。 日常業務においては、予約情報や問い合わせ対応に伴う個人情報について、アクセス権限の管理や適切な保管を行うとともに、不要となった情報の適切な廃棄を徹底した。また、定期的な運用確認を実施し、管理状況の点検に努めた。
【情報公開対応と実施状況について】
関係法令および宇治市の条例等に基づき、適切な情報公開対応に努めた。 施設の運営に関する情報について、利用規則、利用料金、営業時間、各種事業内容等をホームページ等で広く公開し、利用者が必要な情報を容易に取得できる環境を整備した。また、体験事業やイベント情報についても随時更新を行い、利用者への迅速かつ正確な情報提供に努めた。 情報公開請求については、本年度に1件の請求があり、宇治市と連携のうえ適切に対応した。
【その他】
インバウンド利用者の増加に伴い、海外からの体験利用や団体利用が多く見られた。OTA（オンライン旅行代理店）等を活用した予約受付を継続して実施し、国内外からの利用促進に取り組んだ。 また、令和7年度に広場貸出に係る施設利用料金の誤徴収が判明した。条例解釈および運用確認の不足により、一部利用料金に誤りが生じていたため、対象案件の確認および返金対応を進めるとともに、再発防止に向けた運用マニュアルの整備、職員研修、ダブルチェック体制の強化等を実施した。今後は、関係法令および条例に基づく適正な施設運営を徹底し、再発防止に努めていく。

(2) 施設利用状況報告 (令和 7 年度)

【施設利用状況】 1 . 入館 (場) 者数

(単位 : 人 / 台)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
来園者数	7 4 , 1 3 3	1 3 5 , 1 6 7	1 0 3 , 4 7 7	1 9 4 , 1 1 8	1 5 3 , 3 2 5
入館者数	4 5 , 1 4 2	8 5 , 3 5 7	7 6 , 9 8 8	1 6 1 , 7 4 9	1 1 6 , 0 2 0
ミュージアム入館者数	8 , 0 8 3	1 1 , 6 8 7	1 9 , 0 1 8	4 3 , 2 7 1	5 4 , 8 6 2
講座・体験プログラム参加者数	2 , 6 4 2	7 , 4 0 9	9 , 7 4 5	2 0 , 5 1 5	3 2 , 4 9 8
ミュージアムショップ利用者数	1 , 4 0 2	4 , 1 2 2	6 , 4 8 8	1 7 , 0 1 1	1 7 , 2 3 0
喫茶・レストラン利用者数	7 , 0 7 9	1 2 , 2 2 0	1 1 , 9 9 5	3 5 , 3 3 3	1 7 , 7 0 6
駐車場利用台数	6 , 2 5 3	1 2 , 0 4 1	1 2 , 1 6 8	2 4 , 3 3 3	1 6 , 5 2 6

【施設利用状況】 2 . 貸館状況

(単位 : 件 / 人)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
施設貸出	8 1	2 8 8	3 0 3	4 1 3	2 0 5
貸出利用者数	9 , 2 4 8	4 3 , 3 3 6	1 3 , 6 0 6	1 2 0 , 7 8 8	1 5 , 9 8 7

(3) 管理経費収支報告 (令和 7 年度)

(単位 : 千円)

施設名		お茶と宇治のまち歴史公園			
		予定金額	実績	内容	備考
収入	市からの委託料	47,608	47,608		
	利用料金収入	66,164	40,201	ミュージアム 29,584 駐車場 7,859 会議室 2,186 体験室・広場 572	
	その他	32,360	127,064	講座・体験 71,272 ミュージアムショップ 48,733 その他 7,059	
収入合計 (A)		146,132	214,873		
支出	人件費	72,036	60,465		
	事務費	38,201	24,947	使用料・賃借料 4,099 光熱水費 8,363 その他 12,485	
	管理費	25,575	82,976	維持管理費 26,426 体験・イベント委託費 55,704 その他(過年度分誤徴収返還金) 846	
	事業費	0	0		
	その他	10,320	10,320	SPC管理費 10,320	
支出合計 (B)		146,132	178,708		
収支 (A) - (B)		0	36,165		

(4) - 1 事業実施状況報告 (令和 7 年度)

事業 = 公の施設において市が主催し指定管理者が実施する各種講座・講演会等

事業名	目的・内容	実施時期・回数
該当事業無し		

(4) - 2 事業収支状況報告 (令和 7 年度)

団体名

お茶と宇治のまち歴史公園

(単位 : 千円)

事業名	事業実施予算・決算等						
	参加人数と 一人あたり 参加費	収支 (A) - (B)	収入		支出 (B)		
			市からの 委託料	参加費 (A)	講師 謝礼	材料費 等	その他
該当事業無し		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
		0					
計	予定額	0	0	0	0	0	0
	実 績	0	0	0	0	0	0

各欄上段 = 予定額、下段 = 実績で記入する事